

**協働事業負担金（継続） 結果発表コメント案**

**団体名：（特非）横浜移動サービス協議会**  
**事業名：障がい児通学支援協働モデル事業**  
**主担当：柴田委員 発表：柴田委員**

この度はおめでとうございます。

この事業の最終年度となりますが、これまで、年度ごとに新たに出される課題に対して、着実に時間をかけてじっくり取り組み成果を上げてきていることが、提出されたノウハウ集や学校別取り組み事例集、プレゼン等から伺うことができました。

「安心と安全」「子供たちの自立」「ボランティア自身の気づきと成長」「地域が変わる」という表現が報告や今年度の事業提案書の中でも出ています。人として生きていくうえで、大切なことが、この言葉に凝縮されていると感じました。そして、プレゼンで聞かせてもらいました。

当初、来年度についての予算額が大きいと感じていました。それについても、交通の便の課題等が大きいのだと理解しました。「あんしんサポーター」を地域で生み出すための仕組みづくりについても、時間をかけてじっくり協力者を増やし、熟していくように取り組む基本的な姿勢が理解できました。

29年度は「人材不足」と「地域との関係の希薄」「情報の散乱」などの課題が挙げられています。課題解決に向けて、人材育成、ネットワークの構築、情報の一元化の必要性があり、それに取り組むとしています。

是非、最後の年度は「子供たち」も「地域」も、「かかわっている方たち」も成長した、確実に一歩二歩と進められたその成果を見せていただけることを期待しています。

また、加筆されたノウハウ集や学校別取り組み事例集についても期待したいと思います。

**団体名：（特非）ことばの道案内**  
**事業名：神奈川県内ことばの道案内作成・提供事業**  
**主担当：小松委員 発表：佐藤委員**

最終年となる5年目となりますが、採択おめでとうございます。皆さんの取り組みは、音声で道案内し目の不自由な方が自らの意思で外出することをサポ

ートする、いわば地図づくりです。その目的は明確で、社会の課題解決という意味ではNPO活動のお手本だと思います。審査会では全員一致の採択でした。

平成28年度は、目標とされていた駅情報の作成に取り組みました。残念なことです。駅構内では痛ましい事故が起きています。一方、目の不自由な方、体が不自由な方全員に寄り添って案内できるほど、鉄道各社には人的余裕はないことも事実だと思います。以前、皆さま方の古矢前理事長が「目に障がいのある人が自由に外出することは、心の解放につながる」とおっしゃっていました。まさにその通りだと思います。29年度はことばの観光地図作成を開始します。ユニバーサルマップの充実とともに、ぜひ利用者にとって有意義な事業となるよう頑張っていたいただきたいと思います。

お願いがあります。6年目からのことです。道案内には最新の情報が不可欠です。資金面でのご苦労は多いかもしれませんが、広く協賛企業を募るなどし、メンテナンスをしっかりとやっていただきたいと思います。以上です。

**団体名：（N）ミニシティ・プラス**

**事業名：特命子ども地域アクタープロジェクト**

**主担当：長坂委員 発表：長坂委員**

平成26年度からの事業で、基金4年目となる。協働部署の協力もあり、子どもアクターの応募者も増え、派遣を受けた団体からも高い評価を受けており、着実な成果が認められます。

一方、当初、自力で基金設立を目指していた訳ですが、他の団体と連携して寄附を募る方法への変更については、今年度限りで打ち切りとした経緯がございます。その際、この市民基金の活用による仕組みと展開をしっかりと見届け学びたいと申し上げました。

そこで、子どものまちづくり応援事業がどうなったのか、今年度事業報告時に、これに関する報告を見せていただければと思います。

本事業は、5年後の自立を早期から考えて進めている点で期待しているものの、今後も、この事業を協働事業として進めていくためには、一層協力者、理解者、当事者を増やし事業を進化させる必要があります。財政基盤の確立、費用対効果の高い事業運営方法など、協働部署からも提案していただきながら、進めていただければと思います。次年度も期待しています。

**団体名：（特非）JAMネットワーク**

**事業名：神奈川県の子童養護施設における子どもの自立支援事業**

**主担当：中島委員 発表：中島委員**

H26 年度の事業開始以降、県内すべての児童養護施設に訪問して施設のニーズを把握し、また、施設からはプログラムの実施に対する要請も多く、事業が確実に実施されていることが伺えます。

事業 1「自立支援プログラム実施事業」においては、小学生プログラム、中高生・高校生プログラム、そして退所後のあすなろステーションプログラムを組み合わせ、施設に入所する子どもたちに対して、継続的に支援を行う工夫がなされており、自立支援に向けた効果的な取り組みが行われていると思います。施設に入所する子どもたちは、それぞれ異なる背景や支援をするうえでの課題を抱えていることと思います。多様な子どもたちに対して、プログラムを集団で受講することにより、自立に必要な社会性を獲得できるという点も、説得力がありました。

今後、事業を継続的に実施していくためには、事業 2「職員研修事業」や事業 3「サポーター養成事業」がより重要となるように思われます。職員研修は、職員のプログラムに対する理解の促進とともに、集合研修により他施設の取り組みを学ぶ機会ともなり、プログラムの効果的な実施につながると思います。サポーター養成については、継続的に人材を確保するために、なお一層の工夫が必要でしょう。プログラムに魅力を感じる大学生が、継続して参加できる環境を作ることが求められると思います。

子どもたちの自立支援は、長期的な視点で取り組むべきものであることから、プログラムの成果を明らかにする必要があります。終了後に実施している子どもに対するアンケートからの得られる知見とともに、職員による子どもたちの日常の変化の観察など、継続的に成果を測ることが求められます。そして、その成果を、実施団体、施設、協働部署、審査会で共有できるようにし、このプログラムが子どもたちの自立支援に結び付くこと期待しています。

**団体名：（特非）R o B i t**

**事業名：性的マイノリティの子どもに理解のある支援者育成事業**

**主担当：中島委員 発表：中島委員**

この事業が基金 21 の協働事業負担金事業として採択されて以来、LGBT に対する社会的関心は、採用時と比較してもより高まってきていると思います。社会的な関心の高まりを、LGBT の当事者がより企業に受け入れられるような環境

を構築することへとつなげるという意味で、この事業は神奈川県内の当事者や、企業、支援者にとって重要な取り組みと理解しています。

県内の相談支援・自立支援・就業支援関係者に対する LGBT の認知向上・理解促進にかかわる事業については、着実に実施されていると評価できます。これは、各種メディア等で取り上げられるなど、実施団体の認知度も高まってきていることにもよるものであり、実施団体の強みが発揮されているのではないのでしょうか。一方で、協働事業全体では、LGBT の当事者が、県内の支援施設で適切な支援を受けられるようになることが目的です。認知向上・理解促進といった啓発事業が進んできている現在、成果として、実施回数といった実施団体側の指標ではなく、LGBT 当事者の側に立った指標によるものを明確にする必要があると思われまます。

この事業に期待されるのは、LGBT 当事者の就労支援です。この点については、採択時に加えて昨年度の審査会でも指摘しました。実施団体は、キャリア支援に対する専門性を有しており、また、専門家との連携も取りながら事業を進めていることは理解しています。しかし、残念ながら、期待される成果には結びついていません。県内の経済団体との連携や協働部署との協力などを踏まえ、当事者本人に寄り添った就労支援プログラムの構築を確実に進めていただきたいと思ひます。

申請されて予算について、昨年度と比較して 150 万円程度の増加となっています。事業の性格から、基金 21 協働事業負担金に対する財政的な依存度が高いのも理解できますが、それでも協働事業期間の終了後を踏まえ、継続可能な方法を模索する必要もあると思ひます。

**団体名：（特非）MAMA－PLUG**

**事業名：男女共同参画型防災ネットワーク「アクティブ防災」事業**

**主担当：佐藤委員 発表：佐藤委員**

いよいよ最終年度ですね。主に子育て世代を中心とした地域住民に対して、防災の知識を広めることで地域防災の啓蒙のみならず、地域住民の繋がりにも寄与している御団体の活動と初年度からあげてきた実績や成果に関しては、審査員一同とても感心しているところでございます。

既存事業に関しては、草の根の活動を計画通りに進めており、着々と自立への準備を始めていることが見受けられます。是非、このまま進めていただき年間目標を達成し、最終年度にふさわしい年にしていただきたいです。

計画の中で、懸念点をあげるとすれば、新規事業としてこれからスタートさ

せる計画に入っている、外国人や若年層へのアプローチです。無関心層へのアプローチこそ必要なのはよくわかりますが、興味関心が離れば離れるほど、アプローチには人的・金銭的に大きなリソースがかかります。外国人に対する防災を事業としている他の団体もありますので、まずは他団体からの情報収集やマーケティングをしっかりと行い、効率的な計画を組んだうえで、進めていただきたいことと、御団体の大切にしてきた地域性を活かし、神奈川に住む在日外国人の方々へアプローチを行っていただきたいと思います。又、オンラインを使った若年層へのアプローチも同様であり、全国的に発信する前に、基金21の事業にふさわしい地域性を活かした若年層への取り組みを行い、その後、全国へのスケール化を展開していただければ、と思います。

**団体名：（特非）かながわ避難者と共にあゆむ会**

**事業名：県内避難者との協働による支援ネットワーク構築事業**

**主担当：服部委員 発表：服部委員**

これまで主として福島より神奈川県に避難されてきた方々への情報提供、及び交流を図っていただいたことに敬意を表します。

今年度は、交流事業が福島県並びにふくしま連携復興センター、及び民間団体からの資金により実施されている点に関しまして、活動の広がりがあり、基金21での事業が発展したものと理解しました。今後も交流事業の必要性をお話いただきましたが、生活再建に係る個々の課題への相談など、避難者の環境変化、法制度の変化などにより、避難者のニーズが大きく変わる中で、団体の事業も、柔軟に変化していく必要があると判断しました。そして、参加人数などを考慮しますと、福島県、センターでの交流事業で遂行されることが可能ではないかと考えました。

また、昨年度も申し上げた通り、当事者間のネットワーク組織であるつなぐ会の発足により、徐々に活動が移行されるものと期待していましたが、今年度28年度でつなぐ会の自立をお願いしていたわけですが、まだ十分につなぐ会との連携が図られていない点について、あゆむ会の事業遂行能力、キャパシティに不安を感じています。

次年度継続を断念しました理由はこのような点にあります。今後は、避難者のニーズにしっかりと寄り添った内容であるかどうかを常に精査しながら進めて行かれることを切に願っています。

**団体名：（特非）横浜メンタルサービスネットワーク**

**事業名：精神疾患や発達障がいのある若者の就学・就労を目指した自立支援**

**主担当：徳永委員 発表：佐藤委員**

おめでとうございます。

精神疾患や発達障害の狭間において困難な状況におかれている若者の支援については、審査員一同、大変重要なものだと認識しており、この事業の継続におおいに期待をしています。

初年度に支援対象者数を15人としてプレジョブスクールを開始。

その結果、16人のうち14人がプログラムを卒業し、13人が「働く」という新しい道を歩き始めたということは大きな成果だと評価します。

他方、同じような状況にある若者は、県内に沢山いると思われれます。

県との協働の中で、既存の仕組み、例えば地域若者サポートセンターなどを通じて、貴団体の活動を必要としている若者がアクセスできるための「導線」を用意することで、初年度に支援対象となった16人との経験のなかで磨きあげてきたプログラムを、今後はより多くの人たちへ提供することに努めてください。

支援活動と同時に、精神疾患や発達障害の狭間で苦しんでいる人たちがいること、そういう人たちが社会の中で生き生きと暮らしていくためには何が必要か、社会的な理解の拡大も大切なことです。すでに活動紹介ビデオなども公開しているということですが、このプログラムを受けた若者がどう変化したか、貴団体の活動への共感の輪が広がるような「ストーリー」の発信を続けてください。そのことが、「人をこぼさない社会」の実現につながると思います。がんばってください。

**団体名：（N）多文化共生教育ネットワークかながわ**

**事業名：就職弱者の若者へのキャリア支援事業**

**主担当：小松委員 発表：服部委員**

採択、おめでとうございます。今回で3年目になりますが、審査会では対象が7校から9校に増えるなど、当初の目的が順調に進んでいると判断いたしました。予算的にも問題点などは出ませんでした。以前にも指摘しましたが、定時制高校に通学している生徒は必ずしも職業を持っているとは限りません。そういう生徒をどうやって社会に送り出し、自立を促すかは重要な問題です。不

安定な雇用や非正規など就職弱者を生み出さない取り組みは、将来的には貧困対策にもなります。

気になった点を2点、申し上げたいと思います。まず事業に関わる大学生の能力の問題です。審査会に提出された団体と平成27年度の県の評価・報告書には、「スキルアップが必要」「さらなる養成が必要」と課題が記載されました。しかし、プレゼンでの確認には「問題ない」という回答でした。書類の提出とプレゼンは半年ほどのタイムラグがあり、やむを得ないことかもしれませんが、この事業ではワークショップを実施するなど大学生は重要な役割を担っているはずで、評価基準などを示していただきたいと思います。もう1点は、2年続けて不採択となっているキャリアセンターの問題です。審査会ではキャリアセンターの必要性を否定しているわけではありません。これまで2年近く事業を実施し、具体的な成果が上がりつつあるはずで、そういったことを盛り込んだ目的の見えるキャリアセンターの提案をぜひ行っていただきたいと考えます。以上です。